

## 管轄地域内の大学における講義について 中京大学スポーツ科学部スポーツ教育学科「健康教育学」

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）が作成した事故防止に資する資料の活用方法を幅広く周知し、資料の活用促進を図ることで、学校の管理下における事故防止の支援や、円滑な学校教育の実施に積極的に貢献するため、担当県（富山県・石川県・福井県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県）の各教育委員会・学校（園）・関係機関等と連携し、教職員等を対象とした研修会に講師として職員を派遣しております。

今回は、令和4年12月7日（水）学校法人梅村学園中京大学スポーツ科学部スポーツ教育学科の後藤晃伸准教授から依頼を受け、保健体育科教員を目指す学生46名にゲストスピーカーとして以下の講義を行いました。



【講義風景】

【知って、防ごう、学校事故 子どもたちの元気な笑顔を守るために】

### 1 JSCについて

JSCは独立行政法人で、「スポーツ基本法」の理念の下、国や関係団体と相互に連動・協働し、我が国の「スポーツの振興」と「児童生徒等の健康の保持増進」を図るための中核的専門機関であることや、各部署の業務内容について説明しました。



【JSC機構図】

## 2 災害共済給付制度について

制度の性格、契約、給付の対象となる災害の範囲と給付金額及び学校の管理下について説明し、最後に「なぜ、災害共済給付制度が必要なのでしょうか？」という質問を行い、3分間で考えてチャットで回答していただき、制度の根幹である学校教育の円滑な実施に資することについて解説しました。

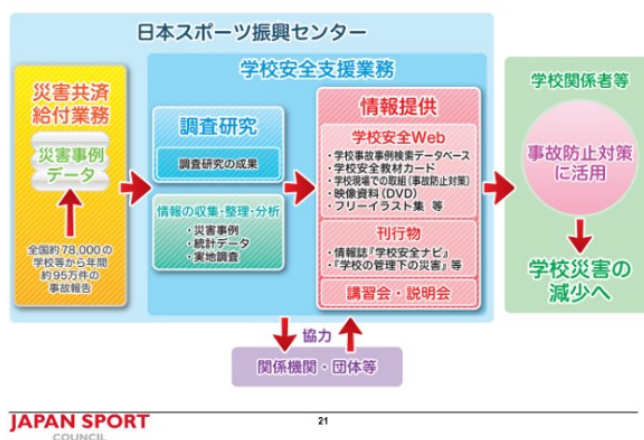


【災害共済給付制度について】

## 3 学校安全支援業務について

災害共済給付業務の実施によって得られる災害事故情報を活用して、事例・統計データの整理、分析及び学識経験者による調査研究を行い、その成果を学校関係者等にわかりやすく提供することにより、学校・園における事故防止のための取組を支援しているという説明をし、最後に「学校での重大事故を防ぐためには、どうすればよいのでしょうか？」という質問を行い、3分間で考えてチャットで回答していただき、事故の未然防止の重要性について解説しました。

### 学校安全支援業務とは



【学校安全支援業務について】

#### 4 過去の重大事故事例から学ぶ事故防止の留意点

学校の管理下での事故は、過去に同種の事故が起きている繰り返しの事故が多いこと、過去の重大事故事例を分析し、事故の発生要因や発生メカニズムなどを把握するとともに、自校にも似た状況がないか確認し、自校の対策として備えることが大切であることから、過去の死亡事故事例（突然死、熱中症）及び中学校・高等学校で最も多い球技（バスケットボール、サッカー、野球）での障害事故事例と調査研究成果による事故防止の留意点について、解説しました。

##### 過去の事例から学ぶ事故防止の留意点（障害）

2020障-331 胸腹部臓器障害 高1・男

体育館でバスケットボールの練習中、他の生徒の左肘が、本生徒の左脇腹部分に強く押し込まれたまま、バランスを崩し転倒した。脾臓破裂による摘出で脾臓を失った。

2020障-329 手指切断・機能障害 高2・女

体育館でバスケットボール部の練習中、試合形式の練習でシュートを打った後、リバウンドを捕ろうとした際、他の生徒と本生徒の手が当たった。右第5指の機能を失った。



JAPAN SPORT  
COUNCIL

34

##### 【過去の重大事故事例から学ぶ事故防止の留意点】

#### 5 学校でのケガへの対応

実際に起きた学校でのケガへの対応について、事故防止の留意点を踏まえて学生へ「この学校の対応はどこが不適切だったのでしょうか？」という質問を行い、3分間で考えてチャットで回答していただき、その問題点について学生と共有しました。

ここで、みなさんに最後の質問です

### 質問3

この学校の対応は、どこが不適切だったのでしょうか？



JAPAN SPORT  
COUNCIL

43

##### 【学校でのケガへの対応】

## 6 JSC学校事故防止資料の活用方法

過去の重大事故事例を調べる2つの方法、スポーツ事故防止のための映像資料、学校安全教材カード、熱中症予防パンフレットの学校安全部が作成した資料のほか、ハイパフォーマンススポーツセンターが作成したアスリートだけでなく、運動部活動を行う生徒も熱中症予防に活用できる「マンガでわかるアスリートを支えるスポーツ科学 競技者のための暑熱対策 運動パフォーマンスの低下を防ぐ身体冷却とは？」について説明しました。

### 熱中症を予防するためには（暑熱対策の漫画）



### 【JSC学校事故防止資料の活用方法】

#### 【講義を終えて】

講義終了後、受講生のみなさんに感想をお聞きしましたので、一部をご紹介します。

・学校の管理下と一言と言っても、幅広く細かく分類されていて難しいと感じた。

災害共済給付金が必要な理由に、生徒やその親の救済だけでなく、学校の職員の救済が含まれていることを初めて知った。

確かに、一度トラブルがあると同じ事がやりにくくなってしまおうと考えることができた。

何もしないことが事故を防ぐことにはなるが、それは教育ではないので、過去の事故事例を学ぶしかない。

部活動中の事故で共通することは、体調が悪いと思ったらすぐにやめる、またそのようなときに無理させない部活動雰囲気作りが必要だと感じた。

ありがとうございました。

・私は中学校で女子バスケットボール部の外部コーチとして活動しているので、事故防止のためにできることがあると具体的に理解することができました。

スピードの速い状態や空中での接触からの事故は予測することができるので、事故を起こさないための練習方法や、段階的に強度を上げていくことなどに気をつけていきたいと感じました。

また、起こってしまった場合の対応にも常に考えながら指導していくことに心がけていきます。

しかし、事故を起こさないことを考えすぎて消極的な練習や指導は生徒の成長にはつながらないのでバランスを考えて、リスクマネジメントを行っていきます。

貴重なお話ありがとうございました。

・災害共済給付制度について学びました。

災害共済給付金制度は、大きな怪我をした際に多額のお金を払うことができない家庭を守るためだと思っていたが、教職員が安心して教育活動に取り組めるようにという願いが込められていて、学校や教職員を救済することを目的にしていると分かりました。

私は、教育者になりたいと考えていて、頭部の怪我の際は脳震盪など大きな怪我につながる可能性があるため、早めに病院へ行くことが大切だと分かった。

迷ったら上位の選択をしていきたい。

#### 【最後に】

今回お話しした内容を将来、学校現場で役立てていただければ幸いです。

名古屋支所管内の教育委員会や関係団体において、「JSC職員から事故防止に関する話をしてもらいたい」等のご要望がございましたら、ぜひ名古屋事務所へご連絡ください。